

“鍛えて、ほめて、伸ばす！子どもの可能性”
 ～「鍛ほめ福岡メソッド」展開中！～

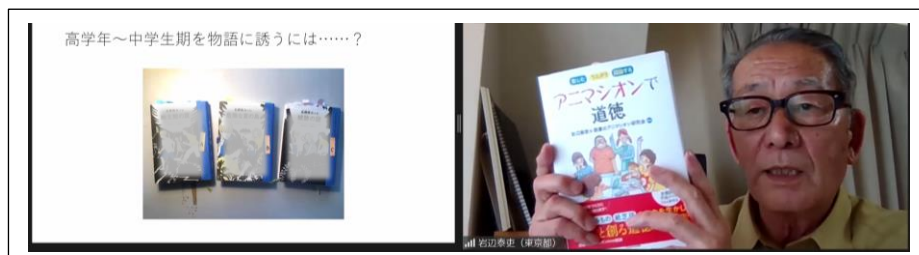


福岡教育事務所・社会教育室

事業報告	令和4年度福岡教育事務所管内「子どもの読書習慣形成・定着支援事業 ～読書活動応援隊スキルアップセミナー～」	
期 日	令和4年6月17日（金） 13：30～15：50（受付13：15～）	
参加者	64名（オンライン参加）	
日 程	時 間	内 容
	13：15 13：30	【受 付】
	13：35	【開会行事】
	13：55	【説 明】「子どもが読書をするきっかけづくり」 福岡教育事務所 社会教育室 社会教育主事 吉川 しのぶ
	15：25	【講 話】「子どもの心に詩と本をとどける 笑顔と言葉を育てよう」 岩辺 泰史 氏
	15：45	【質疑・応答】
	15：50	【閉 会】
	活動の実際	<p>【実践発表】</p> <p>岩辺泰史氏に、「子どもの心に詩と本をとどける笑顔と言葉を育てよう」と題して、講話をしていただきました。岩辺氏は、明治学院大学心理学部教育発達学科教授、読書のアニメーション研究会の代表も務められました。日本において、読書のアニメーションを始められ、アニメーションの素晴らしさを広めてこられた方の一人です。</p> <p>前半では、最初に子どもが本を読みたくなる工夫についてお話いただきました。特に大切なこととして「まずは、大人から始めましょう。」とわたしたち大人が読書をし、その姿勢を子どもたちが見て読書のよさを感じることができるようにすることについてお話されていました。</p> <p>次に、アニメーションの具体例として2つ紹介されました。1つは、「まいごをさがして」というアニメーションで、図書館の本から抜け出した「まいご」</p>

たちをそれぞれの本に戻すというゲームです。10冊程度の本を用意し、挿絵や文章の一部分を紹介し、本のタイトルを当てます。提示した本すべてに共通点があるようにし、読んでみたいという気持ちになれるようにします。今回は、猫が必ず登場する本を紹介されていました。2つは、「どの本、読もうかな？」というアニメーションです。まず、グループごとにタイトルとカバーから得られる情報で物語を予想し、紹介したい本を選びます。(どのグループも選ぶ活動ができるようにグループの数+2冊、選べる本を準備します。)その後、本のタイトルやカバーから予想した物語を書いて発表します。(必ず根拠を示して話します。)全体で確認をしたのち、希望者に本を貸し出すようにし、日常の読書活動につなげていきます。

「アニメーションとは、楽しいひとときをつくり、文化・スポーツ等にいざなう、参加型の社会文化活動」と岩辺氏は、話されていました。



【岩辺氏による講話の様子】

後半では、岩辺氏の著書「まどさんの詩で時間割」をもとにお話をされました。まどみちおさんが大切にされてきた詩のもつ「リズム」について具体的に作品を通してお話されました。子どもといっしょに詩を楽しむことについてお話いただきました。

質疑・応答では、高学年から中学生期の子どもを物語に誘うためにはという質問に対して、高学年向けのアニメーションを紹介してくださいました。

参加者のアンケートでは、「本を好きになるきっかけは1つではなく、いろんな手法があることがわかった。」「不読者を本好きにしないでほしいと思わなくていいとわかりました。今、本が好きな子を大切に、そして、そうでない子には少し興味をもってくれたらいいくらいのスタンスで仕事をしようと思います。」など、講話が今後の取組の参考になったという感想が多くありました。

全体を
とおして

参加者のアンケートでは、「まずは、大人たちが楽しく本を読む姿を見ることが必要だと感じました。1人でもいいので、少しずつでも本に興味をもってもらうことが大切だと考えました。」という回答があり、それぞれの参加者が今後の取組のヒントを得ることができたのではないかと考えます。福岡教育事務所社会教育室といたしましても、この研修会で学んで終わりではなく、参加者が学んだことを一つでも実践していただけるように引き続き支援を行っていきたいと思います。